

<b>1 学校教育目標</b> 校訓「通潤魂」(豊かな心、勤労の喜び、創造の喜び、不屈の意志)を柱として、三綱領「誠実にして 礼節を重んずる」「勤労を尚び 自立を目指す」「創造の喜びを求め 不屈の意志を培う」を实践する。
---

<b>2 本年度の重点目標</b> 「魅力発信、矢部高校！」 これまでの実績をもとに、①～③の重点項目を強化することでさらに高めた矢部高校の魅力を地域内外に向けて強力に発信する。 ①顧客満足度の向上 各学科の特色化を更に進めるとともに、農業分野及び林業分野における教育内容をはじめ多様な進学対応実績を発信し、生徒、保護者及び地域による学校評価等を基にした改善を通して、学校満足度の向上を図る。 ②確かな学力、専門性の習得に向けた授業改善 「主体的・対話的で深い学び」と生徒一人一人の特性等にに応じた適切な指導を通して、基礎的・基本的な知識及び技能の習得と課題解決に向かう思考力・判断力・表現力の育成を図る。併せて、授業における ICT の効果的な活用を図る。 ③働き方改革 学校改革によって業務を削減し、生徒と向き合う時間を確保するとともに、働き方改革の推進を図る。
---

<b>3 自己評価総括表</b> A : 十分達成できている B : おおむね達成できている C : やや不十分である D : 不十分である						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校目標の共有	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	・年度末学校評価アンケートで各評価者の平均値 4.0 以上を目指す。	○全校集会、学年集会、育友会総会、学校HP等で説明及び情報発信する。	A	評価平均値は 4.09 と調査ごとに少しずつ向上。HP や SNS での教育活動の発信も認知されてきている。
	職員の資質向上	学校改革による業務改善及び校内研修の充実と研修等へ積極的な奨励及び育成	・校務分掌の活性化とリーダーの育成	○各担当業務における具体的目標の設定とその進捗状況の把握	B	主任・主事のリーダーシップのもと、校務分掌ごとに目標を設定し、業務の改善、活性化が図られた。学校魅力化と学習評価について、職員研修を実施し、意識付けができた。
	働き方改革の推進	業務の整理や効率化による教職員のワーク・ライフ・バランスの実現	・時間外在校時間が月 4 5 時間を超える教職員を月平均 10 人以下とすることを旨とする。	○朝会、職員会議、職員研修の精選、効率化と業務改善によって、生徒と向き合う時間を確保するようにする。	B	休校の影響もあり、月 4 5 時間以上は月平均 7.8 人と昨年度 13.2 人から大きく減少。朝会、職員会議、研修等を削減した。依然多い職員もおり、さらに業務の精選と効率化、平準化を進める。
	危機管理体制の強化	危機管理意識の向上と的確な対応	・危機管理マニュアルの点検・見直し及び危機管理訓練の実施	○実験・実習・体育・行事における想定及び事前指導の徹底	B	危機管理マニュアルを周知し、危機管理を適切に行った。コロナ禍のため防災避難訓練は校内だけで実施。
	学校管理下の事故未然防止の取組		・実験・実習・体育・行事などでの事故 0 を目指す。 ・年度末学校評価アンケート(環境整備)で平均値 4.0 を目指す。	○定期的に劇物・薬物の保管管理状況の点検、施設・設備の点検を実施する。	B	環境整備関係の評価平均値は 3.68 と目標には届いていないが、少し向上した。実習等での事故はなかった。今後も事故 0 を継続するために安全指導を徹底する。

学力向上	基礎学力の向上	学校全体での個に応じた指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に臨む姿勢や理解度に応じた授業に関する生徒の項目で平均値4.0を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の時間厳守や与えられた課題の提出の徹底。また、個に応じた放課後等の指導や課題の充実</li> </ul>	B	授業に臨む姿勢の項目では3.95とほぼ目標に到達できたが、理解度に応じた授業の項目では3.88と目標に到達しなかった。今後も継続して授業研鑽に励むことが必要。
	わかる授業の創造	生徒の実態にあった教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領を見据えた、授業改善に取り組むとともに公開授業では積極的に2回以上参観する。</li> <li>年度末学校評価アンケートで職員の授業研鑽に関する項目で平均値4.0を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業日の実施</li> <li>教育相談部との連携で授業のUD化を推進する。</li> <li>新学習指導要領を見据えた教育課程編成と評価方法の検討</li> </ul>	B	職員の授業研鑽に関する項目は目標に到達することができた。公開授業は、新型コロナ感染拡大防止のため保護者等に限って案内し、1回実施した。公開授業の前後の期間に校内研修として全教員がテーマを持って公開授業を実施し、授業改善に努めた。さらなる授業の充実と教科指導力の向上に向けた取組を工夫する。
	朝読書の充実	全職員での読書指導の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>10分間の黙読の徹底</li> <li>一人当たり年間冊数を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を効果的に活用しわかりやすい授業を実践する。</li> </ul>	B	1人1台の端末環境に備え、Web研修やGoogle for educationアカウント研修を実施した。
			<ul style="list-style-type: none"> <li>10分間の黙読の徹底</li> <li>一人当たり年間冊数を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した効果的な指導方法の研修会を実施する。</li> </ul>	A	朝読書が実施できた。貸出冊数は昨年度から増加した(1人あたり8.5冊→11.6冊)。図書便りの発行や図書イベントを次年度も実施し、読書活動啓発に努める。
キャリア教育(進路指導)	将来を見通したキャリア教育の充実	適確な自己分析 進学目標実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアプランニング能力の育成</li> <li>進学目標実現への対策充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>系統的進路学習</li> <li>進路ガイダンス</li> <li>キャリアパスポートの活用</li> <li>進路検討会実施</li> </ul>	B	進路検討会、進学個人指導、キャリア・パスポートは成果があったが、コロナ禍のため、進路ガイダンスが実施できなかった。
	就職指導の充実と進路保障の実現	自己理解と職業の適性把握 就職試験対策充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職内定100%達成</li> <li>早期離職率低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアサポーター面談の充実</li> <li>事前職場見学実施</li> <li>就職試験に対する個人指導の充実</li> </ul>	B	キャリアサポーター面談を重ね、適正な企業選択がなされ、就職面接指導等も充実していたため、概ね順調に内定をいただいた。
生徒指導	基本的なマナーの徹底	進学・就職へ向けた意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接試験に通用する整容、挨拶の励行を進め、年度末学校評価アンケートで各評価者の平均値4.0を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>服装・頭髪検査年6回実施。日常的に全職員で取組む</li> <li>挨拶運動、登校指導の実施。集会等での実践。</li> </ul>	A	評価平均値は4.07(昨年4.04)と目標を上回った。特別指導は0件で検査の違反者も1桁となり、0のクラスが多くなった。違反者0のクラスは次の検査をクラスでの簡易的な検査としたが、大きな乱れはなく意識が向上した。挨拶はよくしてくれるが、立ち止まって行うことが十分定着しておらず指導中。

	交通安全教育の充実	全人教育としての交通安全教育の充実	・交通事故・違反0とともに、年度末学校評価アンケートで各評価者の平均値4.0を目指す。	○登校指導、安全点検実施、交通安全教室、新規免許取得者講習、交通事故・違反者指導の実施。	B	評価平均値は3.96（昨年4.06）と目標を下回った。事故14、違反2が発生。 コロナ禍で新規免許取得者講習が遅れ、違反者指導等が十分に実施できなかった。
人権教育の推進	自他の命を大切に、差別を見抜き許さずなくす行動ができる生徒の育成	人権教育の内容の充実 命を大切にす る心を育む指 導の充実	・授業検討会議の実施 ・各学年年間5回分の教材を作成。	○LHRの授業内容の精選と教材研究を進める。 ○研究授業による指導力向上に取り組む。	A	各学年のテーマに沿った教材を作成し、LHR内容の精選を進めることができた。研究授業でもコロナ禍の人権問題に触れ、差別の根底にあるものを知る有意義なものにできた。
		職員研修の充実	・年1回の講演会の実施と年5回の研修を実施	○職員の共通理解と認識を高める。	B	コロナ禍の影響のため講演会は実施できず、研修は4回の実施にとどまった。
いじめの防止等	いじめの「未然防止」及び「早期発見」	全ての生徒が安全・安心に学校生活を送り、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できる学校づくり	・生徒一人一人が自己有用感を持つことができる授業、学校を目指す。 ・いじめは起きるものと認識し、早期発見、未然防止のための手立てを行う。 ・年度末学校評価アンケートで各評価者の平均値4.0を目指す。	○学校行事の充実を図る。 ○規律ある学校生活を送るため、授業の充実、生徒指導の充実を図る。 ○2者面談・アンケート等を定期的に実施する。 ○登校指導において生徒への積極的な声かけ、観察を行う。 ○各部会での情報共有。 ○防止対策会議の開催。	B	評価平均値は3.73（昨年3.72）。評価者別では中学生保護者(3.14)、地域住民の(3.19)が低い。 コロナ禍もあり、各部との連携のもと生徒の見守りを行ってきた（全職員による登校指導・声かけ、2者面談、学期毎の心のアンケート、各部会における生徒の情報共有等）。若干のトラブル（いじめ認知は1件）はあったが、全体的には落ち着いた生活ができた。
地域連携（コミュニティスクールなど）	郷土を愛し・誇りを持つ生徒の育成と総合型コミュニティ・スクールの充実	地域行事、ボランティアへの参加 普通科の「総合的な探究の時間」において地域課題に関する学習を実施 防災教育の充実	・年度末学校評価アンケート（地域連携、防災関係）で各評価者の平均値4.0を目指す。	○八朔祭での造り物製作、ボランティア活動を実施。 ○協議会での意見交換を通して、魅力ある高校作りを推進。 ○合同災害訓練を実施。	B	普通科の「総合的な探究の時間」において、地域の協力を得ながら地域課題に関する学習を実施できた。食農科学科、林業科学科も地域と連携した取組を継続して実施できた。 地域行事等への参加や防災等での地域との連携については、コロナ禍の影響で十分には実施できなかった。
特別支援教育（教育相談含む）の推進	特別な支援を必要とする生徒への柔軟な対応	個の発達に応じた指導の充実 職員研修の推進	・職員全体の理解を深め、指導力を向上させ、年度末学校評価アンケートで各評価者の平均値4.0を目指す。	○生徒の指導計画を作成し、全職員で支援する。 ○生徒の理解と支援のための研修会や連絡会を学期に1回以上実施する。	B	生徒の支援・指導計画の作成にあたり、外部専門機関へ相談する機会を設けることができた。 研修会等は予定通りに実施できた。日頃から教科指導にあたる職員間で、支援の方向性などを協議する機会を増やしたい。

#### 4 学校関係者評価

- ・おそらく課題を持った生徒も入学してくる中で、年度当初から1人の転退学者も出ていないことが何よりである。先生方が家庭と連携しながら丁寧に指導されていることがうまくいっている。
- ・コロナ禍の中で4月から課題学習だけでなくオンラインでの授業や健康観察などに組み込まれており、生徒の新年度の導入指導もスムーズにいったのではないか。
- ・多くの学校行事等が中止になったが、感染防止対策に配慮しながら文化祭や農産物販売会、持久走大会などは実施され、保護者や地域住民も参加し、交流を深めることができた。
- ・食農科学科、林業科学科、普通科の特色ある取組はいろいろなところで取り上げられPRされているが、まだまだ知らない人も多い。同じ町内でも地域による差が大きい。情報発信についての評価は比較的高いが、さらに工夫していく必要がある。
- ・学校評価アンケートの対象が広がったが、質問項目については、答えにくい項目や判断しにくい項目もあるので対象に配慮して工夫した方がよい。
- ・コロナ禍によって地域では防災訓練等がすべて中止となり残念であった。矢部高校では校内でできる範囲で実施されておりよかった。来年度はまたぜひ地域と合同の避難訓練を工夫して実施していただきたい。
- ・進路指導において、就職では就職先がすべて決定し、進学ではすでに3人が公立大学に合格するなど成果が出ており、アピールできるのではないか。クラスの生徒数が少ないこともあり、生徒一人ひとりの状況に合わせた丁寧な進路指導の成果が出ていると思われる。
- ・全国募集に熱心に取り組まれているが、今年のような状況であれば県境を越えた移動はなかなか難しい。地元の中学生の出願率を引き上げるために、高校の魅力をアピールしながら生徒募集につなげることが大切である。自分たちのころのように矢部の中学生は当然のように矢部高校に行くという時代とは違う。
- ・小中学校との交流活動など様々な活動に感謝したいと思う。今後も保護者や地域との連携を大事にしていきたい。

#### 5 総合評価

- ・山都町唯一の高校として、地域の本校に寄せる期待に対し、職員は、学習指導、進路指導、生徒指導等、生徒の夢の実現に向けて、一人ひとりの状況に合わせて丁寧に、熱心に取り組んでいる。そのことが、今年度の転退学者0、特別指導0、3年生の進路状況などに成果として表れている。
- ・林業科学科、食農科学科、普通科とも地域や各関係機関・団体と連携した特色ある教育活動を展開している。特に専門学科では、中学生の農林業に対する興味・関心を高め、専門学科での学びや身に付けた技術が地元を支える人材となることを視野に、町、地域や大学と連携している。
- ・習熟度別授業や類型別学習などの授業形態の工夫に努め、少人数クラスの強みを生かし、個々の生徒に対して丁寧な指導を行っている。
- ・昨年度から運営が開始されたNPO法人による学生寮や「地域みらい留学」への参加によって、本校に関心を持ち本校で学ぶ意欲を持った生徒が全国から集まっている。地元の中中学校からの進学率を上げるとともに、他県や県内他地域からの入学者数増加に向けて、引き続き充実した教育活動の展開とその情報発信に力を入れる必要がある。

#### 6 次年度への課題・改善方策

- ・普通教科を始め、専門教科の知識や技能を習得させ、基礎学力の充実にさらに力を入れる。国公立大学をはじめとする進学や公務員、各種事業所等への就職に対応できるよう、生徒の学習の習慣化、職員の教科指導力の研鑽、生徒理解と丁寧な個別指導に努める。
- ・今年度の学校評価アンケートは、対象を地域住民や山都町内すべての中学校保護者まで拡大したことにより、本校が地域にどのように映っているかを把握することができた。今年度の結果をもとにアンケートの項目を精査しながら、更に情報発信、教育活動の公開、小中学校（生徒）との連携を進めていき、地域からの期待に応え、生徒・保護者から満足される学校作りを目指す。
- ・安全・安心な学校作りとして、地域と連携した防災活動、教育相談の充実、バイクや自転車の交通安全指導の徹底等に継続して取り組む。